

流域対策の主な取組み（神明地域）

1. 調整池の設置及び保全

（1）調整池の設置等

- 雨水の流出量が増加する面積1ha以上の開発行為の場合、重要調整池の設置を義務付け、指導する。〈県条例〉
- さらに神戸市は、開発面積が0.3ha以上で雨水の流出量が増加する場合、調整池の設置を指導〈神戸市洪水調整池設置指導要領〉

（2）調整池の保全・活用

- 調整池の管理者は、調整池の雨水流出を抑制する機能を維持するため、適正な管理を実施する。〈県条例〉
- 既存の調整池については、所有者などの同意を得られた場合、「指定調整池」として指定する。〈県条例〉

2. 土地等の雨水貯留浸透機能と貯水施設の雨水貯留量の確保

（1）学校・公園

- 主に内水氾濫による被害軽減対策として、校庭貯留、浸透マス、浸透性のある舗装など雨水の貯留浸透機能向上の取り組みを検討する。

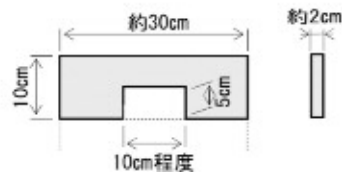
（2）その他大規模施設

- 県営住宅整備事業において、駐車場地盤面の切り下げなどにより雨水の一時貯留を実施する。（明石長坂寺住宅など）

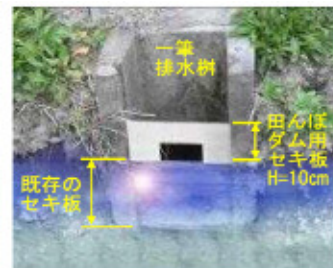
（3）水田

- 集落内での合意形成を図ったうえで、田んぼの落水口に切欠きのある雨水貯留用セキ板を設置し、営農に支障のない範囲内において、激しい雨の時に水田貯留に努める。

- ・ 下図のように切欠きのあるセキ板を準備します。
- ・ 材質は、木材※やスレートなど一定の強度があるものが望ましいです。



※木材は水位上昇時に浮く場合があるため固定が必要



(4) ため池

- ため池の水は貴重な農業用水であり、管理者の同意や協力が得られる場合、作付けなど営農に支障がない範囲内において、事前放流や池底の掘削等により、雨水の貯留容量確保に努める。

工事中の谷池（明石市）



(5) 各戸貯留等

- 雨水貯留タンク等による各戸貯留を推進する。
（雨水貯留タンク購入助成制度の検討など）

3. ポンプ施設との調整

- 堤防の決壊等が発生する恐れが生じている場合には、当該河川への排水を停止するなど、ポンプ施設の適切な操作を実施する。

4. 遊水機能の維持、森林の整備及び保全

- 遊水機能が発揮されるような地形の保全に努める
- 第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画を推進し、土砂流出防止施設の設置、間伐の支援など森林の整備及び保全に努める。

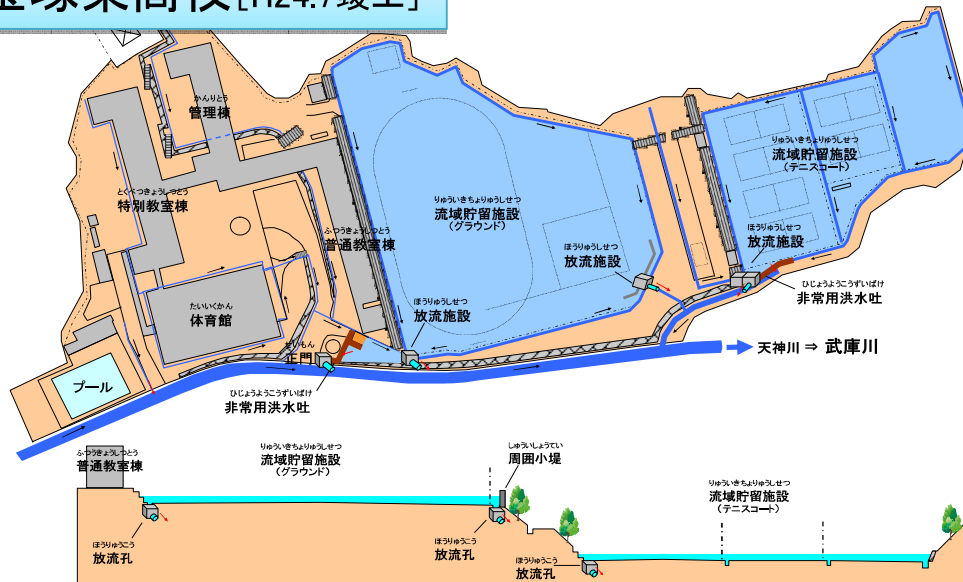
5. その他【減災対策の取り組み】

- 総合治水の普及啓発活動の一環として、学校カリキュラムと連携し、総合治水の模型製作や実験を実施する。（明石工業高等専門学校など）

宝塚東高校及び阪神昆陽高校での校庭貯留

概要図

宝塚東高校 [H24.7竣工]



阪神昆陽高校 [H24.7竣工]



グラウンド周囲の小堤

雨水貯留状況(宝塚東高校)



放流施設(オリフィス)

校庭貯留の施設整備について

1. 流域対策（雨水貯留浸透対策）について

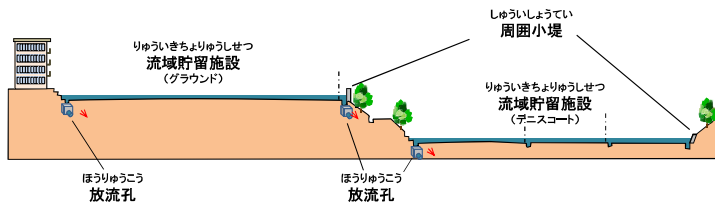
近年、市街化の進展による流域の保水・貯水能力の低下や低平地への人口・資産が集積していることに加え、地球温暖化による集中豪雨が多発する傾向にあり、洪水被害の危険性が増している。

このため、これまで進めてきた河川下水道対策に加えて、学校の校庭・公園・ため池などに雨水を浸透又は貯める流域対策を行い、流域からの流出量の抑制に取り組む。

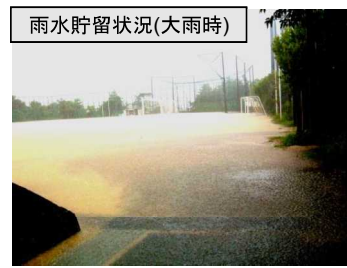
2. 学校貯留の概要

＜雨水貯留及び流出の抑制＞

グラウンドの周囲に小さな堤（周囲小堤）を設置し、また、放流孔の口を絞ることで敷地内やグラウンドに降った雨水を一時的に貯留して、下流への流出量を抑制する。



3. 大雨時の貯留状況



平成24年7月24日 時間34mmの大雨時の状況

県立宝塚東高校（大雨時に雨水を校庭に一時貯留）

4. 設計の考え方

(1) 貯留水深の設定

グラウンドでの最大貯留水深は50cmとする。

(2) 周囲小堤の設置

グラウンド周囲には雨水を一時貯留するため、周囲小堤を設置する。

(3) 放流孔（オリフィス）の設置

放流孔の口径は、計画降雨に対する貯留可能量や排水時間等を考慮して、大きさを設定する。

(4) 排水施設の整備

貯留した雨水を円滑に排水して、従前のグラウンド利用を確保するため、既存の排水システムを活用しつつ、必要に応じて側溝やグラウンド下の集水暗渠を増設するなど、排水施設の充実を図る。

(5) 余水吐の整備

計画以上の降雨が発生した場合に備え、満水となったグラウンドの貯留水を安全に放流する余水吐を設置する。

